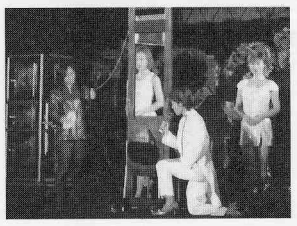
MADSKIPPERS' FESTIVAL

Mudskippers
第 3 号
2002年 1 月発行
佐賀医科大学
〒849-8501
佐賀市鍋島 5 丁目 1 番 1 号
http：//www.saga-med.ac.jp/
新聞編集委員会
印刷／㈱昭和堂

平成13年10月27日、28日に学園祭が開催された。26日の前夜祭から盛り上がりをみせた。開催期間中少し雨が降り、学園祭実行委員や出店している各部は心配したが、客足が途絶えることはなかった。

毎年、実行委員を中心に何ヶ月も前から準備が行われている。今回も、早くから準備に取り掛かり、万全の体制で学園祭に臨んだ。学園祭成功の裏側には、このように実行委員の努力が隠されているのである。

さて、今回の学園祭では、皆、どのように感じ、どのような思い出を作ったのだろうか？初めてこの学園祭を経験した一年生、そして少し慣れてきた二年生を対象にアンケートを取った。一年生78人、二年生51人、計129人からの回答を得た。そのうち学園祭に行った人は123人であった。


前夜祭・マジックショー

学園祭は楽しかった？

【YES　76%(94人)】
「模擬店を頑張ったから」と、よく働き充実していたと答えた人が多かった。「いろんな人と仲良くなれた」という感想もあり、学園祭は学内、学外の交流の場になっていることがわかる。

【NO　19%(23人)】
「模擬店で忙しく働いていて、大変だった」と仕事がきつかったという人は9人。楽しくなかったというよりも、楽しめなかったという理由でNOと書いたようだ。しかし、「下ネタが多すぎる」「ミス医大が下品」と、本当に楽しくなかったと感じている人が14人もいた。

食べ物ランキング

票はかなりばらつき、どの模擬店も好評であった。その中でも多くの票を獲得したものは次の3つである。

一位　リング焼き（バスケット部）
二位　ラーメン（野球部）
三位　クレープ（水泳部・馬術部）

企画ランキング

一位　ミス医大
二位　マジックショー
三位　ジャズダンス
四位　ミスコン

メインステージでは様々な企画が行われたが、中でも人気があったのは以上の四つ。

ミス医大あなたは容認派？否定派？

前述の企画ランキングではミス医大が一位になったが、果たしてミス医大は容認されているのであろうか。

アンケートの結果によると、男性は容認派12人、否定派9人。人数が少ないためどちらが多いとも言えない。女性は、容認派32人、否定派26人。中でも一番否定派が多かったのは医一年女子で、容認派5人に対し否定派13人であった。

【否定派】「下品。3分見ていて気分が悪くなった。何が面白いのかわからない」「小さい子供も見ていたので教育上よくないと思う」と厳しく批判する意見が多く、中には「やっている人がかわいそう」と同情する意見もあった。

【容認派】「毎年、各部活は面白いことを考えてやってくれるので、見ていてとても楽しい」「たまには羽目をはずしてもいいと思う」という意見もあったが、中には「見るだけなら別にいいが、半強制的にやらせるのは良くない」「面白いが、やり過ぎなところもある」と警告している人もいる。

文科系部活動などの発表

「天文部が楽しかったです」「茶道部のお茶がおいしかった」「寄生虫がリアルで良かった」「軽音、室内楽の発表は感動した」など有意義だったという感想が多かった。しかし、忙しくて見に行けなかったという人が沢山いたようだ。

コンサート

学園祭二日目に千綿ヒデノリ、The Kaleidoscopeのコンサートが行われた。「迫力があってよかった」「初めてライブに行ったが、本当に楽しかった。コンサート関係の医大のスタッフが頑張ってくれたので安心して楽しめた」との感想であった。

講演

柳田　邦男氏

学園祭一日目、「作品としての医療～患者の人生・医療者の人生～」をテーマに、医療ジャーナリスト柳田邦男氏による講演が行われた。

テーマについて端的に語られた部分を紹介する。「医療行為を作品というものに捉えて、いい作品を作ろうと思うならば、『年に一つ、私の代表作はこれだといえる作品を作ろう』という問題意識を持ったほうがよいでしょう。そういうものを五年、十年続けていくと、自分の代表作は十になり二十になり、それが自分の人生であり、自分を高めていくものになります。そういう問題意識を持って過ごしていったならば、問題意識を持たずその日暮らしをしている人よりも、おそらく十年後、その人の人間像なり、患者が直観的に感じる信頼感は違ってくると思うのです」と柳田氏は医療者へメッセージを送った。

学内だけでなく、学外からも多くの人が来場した。「先生のわかりやすいお話に感激しました。事例を挙げて話され、もっと友人を誘って来ればよかったと後悔しました（64才、職業・福祉関係）」「NHKの時代から注目してきた先生の話をナマで聞けて幸運でした。医療を受ける立場の十か条が為になりました（52才、薬剤師）」と来場者は、柳田氏の講演に感銘を受けて、帰っていった。

講座 Q&A　第2回　解剖学講座（肉眼解剖学）

教 室 員：埴原恒彦（教授）、篠田謙一（助教授）、長崎洋（助手）、菊池泰弘（助手）、渕上篤信（技官）、河野まゆみ（技官）、重松正仁（大学院生）
研究課題：自然人類学
※現在埴原教授はアメリカ合衆国にて研究中

このコーナーでは佐賀医大の基礎医学講座における研究の数々をわかりやすく紹介していきます。今回インタビューに答えていただいたのは解剖学講座のうち肉眼解剖学部門の篠田謙一助教授です。

Q：埴原先生は1年間アメリカに出張されていますが、そこでの研究について教えてください。

A：埴原先生は現在スミソニアン博物館で調査を行っています。そこに収蔵された世界各地の頭蓋骨形態を調査し、現代人の起源と系統についての検討を行っています。

Q：篠田先生が行っている古代人骨の遺伝子解析の内容について教えてください。

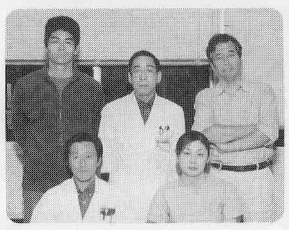
A：私は縄文・弥生期の日本人の人骨の遺伝子を解析することによって日本人のルーツや古代の社会構造を解明することを目的とした研究を行っています。そのために中国の長江流域から出土した弥生相当期の人骨の調査も手がけています。また最近は、モンゴロイドの拡散の歴史を復元するために、中近東や南米のサンプルも調査しています。

Q：そのような調査の結果、現時点で解明されたことは何ですか。

A：日本人の成立は複雑なプロセスを経たようで、私たちはいろいろな時代にアジアの広い地域から入ってきた人々によって徐々に形成されたようです。私たちの祖先は、古代に大変な冒険をしたようですね。

Q：助手の先生方の行っている研究の概要について教えてください。

A：菊池先生は京大の霊長類研究所と共同でコンピューターやCTを用いて霊長類の骨形態を力学的に解明するプロジェクトに取り組んでいます。長崎先生は解剖標本の作製に関しての技術開発を行っています。


菊池、長崎、篠田、渕上、河野

Q：篠田先生が人類学の研究において、個人的に今一番注目していることは何ですか。

A：分子生物学が人類学にも応用されたことによって、今まで形態から類推してきた人類の系統関係が遺伝子を用いて解明できるようになってきました。こうした研究が人類学の分野にどのような知見をもたらすのかに興味を持っています。

Q：人類学の役割と今後の先生の目標について教えてください。

A：人間の生物学的な側面を学際的に解明することによって、ヒトとは何かということを統合的に考えていくのが人類学の目的です。その中で私は「私たち日本人とは何なのか、その成立の過程はどのようなものであったのか」ということを中心に解明していきたいと思っています。

Q：最後に学生に向けて一言お願いします。

A：学問を楽しんでほしいと思います。単位を取るために勉強することも必要でしょうが、本来学問が持つおもしろさに気付いてもらいたいですね。人類学に興味を持ったらいつでも研究室に訪れてください。

以上

ありがとうございました。次回も御期待ください。

（小松）

実行委員長より

三年　矢野　浩介

最高の仲間と共に全力で駆け抜けた一年間。瞬く間に時が過ぎていった。私は、この一年間、仲間と共に様々な理想を掲げてきた。私達は何でもできると信じ、そのためにがむしゃらに努力した。何度も壁にぶつかり、仲間と共に苦難を乗り越えた。越えられなかった壁もある。しかし、後悔はしていない。自分達の限界を知り、私達は成長できたと確信する。

私達の理想のため、苦労や迷惑をかけたが、それでもついてきてくれた仲間、応援し続けてくださった皆様には感謝の念が絶えない。そして、それに報いるだけの成果が得られたと自負している。

むつごろう祭は永遠に不滅だ！

（左）仲野泰啓　（右）矢野浩介

委員長後継者からのメッセージ

二年　仲野　泰啓

二〇〇二年の大イベントといえば、ソルトレイクシティー冬季五輪、サッカーワールド杯、そして第二十四回むつごろう祭！昨年は大変盛り上がりましたが、今年は更に盛り上げます。これまで、先輩方が築き上げてこられた、むつごろう祭の伝統を受け継ぐとともに、更なる飛躍を目指し、新しい企画をどんどん取り入れていこうと思います。そして、学園祭に関わる人、全員が楽しめるものにしていきます。私達、実行委員はそんな学園祭を目標に、準備をしていこうと思いますので、皆も是非参加し、第二十四回むつごろう祭を素晴らしいものに創り上げていきましょう。

アンケートに協力して下さった皆様、ありがとうございました。

（河田・坂本・藤井宏）

天山おろし

昨年末、ある卒業生から手紙をもらった。文系から理系へと紆余曲折を経て医師になったためか、社会を見る眼の鋭さを感じた。その手紙の中の、「社会のすき間を埋める仕事をしていきたい」という一文が強く印象に残った。様々な考え方ができると思うが、病気を例にとると、病気は日常のバランスが崩れて出来たすき間と考えられる。そして、医師はそのすき間を埋める存在ともいえるのではないか。また、学問においても、ある分野と分野のすき間に、とても大切なことが手つかずで残されているかもしれない。また、大きな集団と集団のすき間に取り残されたマイノリティーのことでもあろう。

ここで連想は否応なしに、私達の脳裏に刻まれたアフガンの人達の姿へと辿りつく。二十一世紀の幕開けの年に世界中の人々を震撼させた、あのニューヨークの破壊の映像。暴力による声高な主義主張が多くの命を奪い、さらに大国に翻弄され続け、そのすき間で生きてきた人々の苦しみを倍加させた。

どんな立場であれ、それぞれの立場から見えてくるすき間を埋める仕事は、その人しかできない使命ともいえるものである。新しい年を迎え、すき間を埋める労作業を地道にやっていきたい。かつての、そして今の学生から学ぶことはとても多い。

（池田）